

会長挨拶

コロナ下での派遣 苦労があったと思う。
行ってみたい思いを

第1部

帰国報告

元プラハ日本人学校 山里中桐谷祥平教諭

私の経験から

- ・世界一美しい街といわれる。
- ・置かれた環境を面白いがる。コロナ禍で4月派遣が延期
 - ① 「出来事を前向きにとらえる。」人生に自分で意味づけをしていく。曲作り。1対1の授業, 1冊の本チエコ大統領ハヴェル 力なき者たちの力をもとに, 読み解き, 戯曲づくりへ
 - ② 「言語・文化に親しむ。」役に立つか立たないかを真ん中にしない。
 - ③ 「人にまみれて塗れて繋がる。」

Q: 派遣前の研修の状況は

A: 自分の時までではできた。次の年からはオンラインの受講。

元アブダビ・マニラ日本人学校 三好豪

- ・フィリピンの野菜の歌。川下り, 島, 山,
- ・聞かれたこと。なぜ希望したのか? もう1回行って力を生かしたい。
- ・ものの見方の研究をした。視点がいろいろある。洞察力→結局, 主観。主観を抜け出す努力。
- ・ものごとの本質を正しく評価する力
- ・コロナ禍による制限 オンライン授業でもどうにかなる。
- ・ICT活用の実証事業
- ・フィリピン…バハニアンスピリット (近所付き合いの力, みんなでがんばろう)
- ・ざがーと (喜捨) …自分のものを誰かのために使う
- ・バイカルチュラル視点

Q: オンライン授業での学力低下は

A: 対人問題はない。低学年には向かない。環境を整えばICTを使った力は伸びるが……。

Q: フィリピンは国際結婚が多いそうだがコミュニケーションは

A: 日本語が話せるのが条件だが, サポートは難しかった。

Q: 家族で行く決断はどんな話をしたか。

A: 自分の親, 相手の親への話をしっかりしておく。今は单身でもいける。

元ブラッセル補習授業校 酒井元治 校長

- ・ビザが下りなかったため、2か月遅れて途中から派遣。
- ・補習授業校 土曜午前中 国，算中心
- ・全日制と同一校舎
- ・少ない時間数で日本の教科書を終わらせる。
- ・社会に出て必要とされる資質能力調査 人柄（明るさ，素直さなど），コミュニケーション力，主体性，独創性
- ・日本人はきちっとした国民性だが，おおらかさは少なくなってきたのでは。

Q：現地の職員とうまくやるコツは

A：日本料理ができるようになってきていること。

※研修は，オンラインで勤務時間での研修。

第2部 講演 長崎県立大学 山崎祐一先生

「国際理解教育と異文化コミュニケーションについて」

- ・長崎県 グローバル人材育成 長崎県 異文化理解の話が再燃している。
- ・英語学習と異文化理解を切り離すことがあるが，そうではない。
- ・日本語は否定文を使いたがらない。日本語は聞き手に判断をゆだねられる。英語はスピーカーに説明責任がある。
- ・身近なことでない，主体的にはならない。

「子どもたちはどうしたら英語に興味を持つのか？」

- ・hill「ヒル」 hilly 坂が多い
- ・事実発問（いつどこなに）→推論発問（why）→評価発問（How）思考を働かせていく発問
- ・言葉にこだわる文化 アメリカ
- ・何のために英語を学んでいるか。の意識はあるか。
→英語学習で「旅」を経験させる。価値観の多様性。認め合う心，メッセージが世界中にダイレクトに伝わる，異文化を知らないとコミュニケーションができない，国際的な素養，地域に貢献できる人材を育てよう
- ・異文化のルールを知る，バットを投げた新庄。
- ・エスペラント語（世界共通語）誰も興味がない。背後に何の文化も存在しないから。
- ・異文化を読み取り外国語を学ぶ 3つの要素 3P's もの product, 習慣 practice, 見方考え方 perspective
- ・文科省 グローバル人材の育成 語学力，主体性…，異文化理解
- ・アメリカでは異文化理解とともに自文化理解につなげる。
- ・学習指導要領にも書いてあるが，「その背景にある文化の理解…」はあまり重きを置かれていない。
- ・どうしたら英語を話せるようになるか。発信力が試させる。
→知識「点」はあるがコミュニケーション「面」になっていないのが原因。使いながら身に付けていくもの。知識技能は理解する力と結びついて初めて活かされる。コミュニケーションの体験的な活動が必要。
- ・英語は，名前を呼ぶ，聞き返す文化 異文化理解のポイント
- ・発音は大事。うなぎとかめの話。一時一音違うだけで通じないなら，意味がないのでは。だから大事。

副会長挨拶

このセミナーをまた開きたい。